東北中央病院
Tohoku Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers

地域医療連携室だより

令和６年１月
NO.66

公立学校共済組合東北中央病院　地域医療連携室・入退院支援室
TEL　0120-703-995　FAX　0120-168-990　代表 TEL　023-623-5111

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷第３１回和ＧＯ懇話会

令和５年１２月７日（木）大手門パルズで、「第３１回 和ＧＯ懇話会」を開催しました。お忙しい中、関係医療機関の先生方にご参集いただき、有意義に開催されましたことに厚く御礼申し上げます。

特別講演

『糖尿病網膜症における血糖コントロールの重要性』

演者：山形大学医学部 眼科学講座
教授　枚本 昌彦　先生（写真左）

座長：眼科部長　大沼 郁子　医師（写真右）

網膜症は、１９９０年代では失明原因の第１位となっておりました。しかし、内科医による血糖コントロール、罹患患者への眼科受診の推進、新薬の開発及び普及、医学の進歩などにより２０１９年には網膜症は失明原因の第３位に順位を下げ、現在は緑内障が第１位となっています。

眼科治療技術は日々進歩しており、白内障手術においては３０年ほど前では２０～３０分かかる手術も、現在は低侵襲化によって１０～１５分程度となり、日帰り手術も可能となりました。また、術前は血糖コントロールをすることが通例でしたが、コントロール不良例では術後の網膜症進行が見られないものの、急激なコントロールをした例では進行が見られ、低侵襲治療では急激なコントロールは要さないことがわかりました。講演では、血糖コントロールが原因で視力低下する症例について解説があり、診療ガイドラインのとおり、血糖コントロール前に眼科へコンサルトすることが重要であるとお話をいただきました。

糖尿病性網膜症の診断については課題があるものの、アメリカでは AI カメラで診断ができるようになってきています。治療については、網膜光凝固（レーザー治療）で、網膜の病変部を組織破壊し進行を抑えるものがあります。難易度の高いものであった増殖糖尿病性網膜症の治療についても、手術機器や技術の進歩によって、安全に手術が行えるようになってきました。また、薬物治療についてもより良い新規薬剤が製造され活用されています。

最後にまとめとして、糖尿病網膜症治療は【他科連携が重要】であり、【治療の進歩】や【新規薬剤の登場】が目覚ましいとお話をいただきました。また、最新のデータや症例をもとに最新の治療についてユーモアを交えてわかりやすく解説していただき、出席者からの多数の質問にも丁寧にご回答いただきました。このたびは貴重なご講演を賜りまして、誠にありがとうございました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。